

ピック地区の通り名変更案

田川光照 訳

『ピック地区の通り名変更案』は、1793年11月3日に、公共事業担当者の依頼によって地区副委員長であったサドが地区内の通り名の変更案を作成し、地区総会で朗読の後、コミューン総会および公共事業担当官への提出を認められたものである。

凡例

- 一、翻訳には、Œuvres complètes du Marquis de Sade, en 8 vol, Cercle du Livre précieux, 1966-1967 の第11巻に収められたものをテキストとした。
- 二、原文中のイタリックはすべて傍点で示した。
- 三、訳注は、本文中にはアラビア数字で示し、巻末に送った。

ピック地区の通り名変更案

(1793年11月7日)

サドは、地区の通りに関して課せられた仕事の写しを、監視委員会に提出する光栄に浴する。

彼は、友愛に満ちた敬意を受け入れてくれるよう、同胞に願う。

単一にして不可分なるフランス共和国第2年、第2月、第1旬日、ブリュメール17日。

ピック地区常設総会よりコミューン議会へ

人民の行政官諸君、

諸君によって認められた公共事業担当者たちは、禁止されていたり、下劣であったり、無意味であったりする銘をもつ地区内の通りの名を変更するよう、ピック地区に促した。ピック地区は、これほどの愛国的な計画に熱心に応え、この問題に関する報告書を諸君に提出する次第である。ピック地区が委員たちに望んだことは、新しい名前を古い名前とともに示し、それら新しい名前のいくつかを決定した理由を簡潔な解説によって明らかにすることである。

サントノレ通り (rue Saint-Honoré) はコンヴァンション¹通り (rue de la Convention) に。

同フォブールはフォブール・ド・ラ・コンヴァンション通り (rue de Faubourd-de-la-Convention) に。

この二つの通りは、一部分しか当地区に属していない。諸君がこの名称を支持しないかぎり、我々はその名称を決定するために他のいくつかの地区と合意する必要があることを指摘しておく。

ヌーヴ・デュ・リュクサンブール通り (rue Neuve-du-Luxembourg) はリュクルゴス通り (rue de Lycurgue) に。

ラケダイモンのこの立法者は、畏敬さるべき人物に思われた。祖国ラケダイモンの暴君になりえたにもかかわらず、彼が望んだのは立法者たることにほかならなかった。彼の諸々の法は、暴君たちによる専制政治を打倒し、共和政体を勝利させたのである。フランス人が友人とし模範とすべきは、このような人々をおいてほかにはない。

カピュシーヌ通り (rue des Capucines) はシトワエンヌ・フランセーズ通り (rue des Citoyennes-Françaises) に。

ヌーヴ・デ・マチュラン通り (rue Neuve-des-Mathurins) はカトー²通り (rue de Caton) に。

この有名な人物は、祖国愛を歓喜にまで至らせた。一四歳のとき、彼はローマの暴君の一人スラを殺すために剣を求めた。彼はカエサルの大敵の一人であり、共和主義者にふさわしい二つの激しい決断を下した。すなわち、ポンペイウスが勝利したなら亡命するという決断と、カエサルが勝利したな

ら自殺するという決断である。カエサルが勝ち、カトーは祖国が恥辱にまみれてからも生き続けることを望まず、自らの言葉を守って、自分の心臓に剣を突き刺した。

サン・ニコラ通り (rue Saint-Nicolas) はロム・リーブル³通り (rue de l'Homme-Libre) に。

カピュサン通り (rue des Capucins) はレグルス通り (rue de Régulus) に。

このローマ人の名は、我々の記録の中にとどめられねばならない。彼は、もし彼が弱気になって自分の祖国に和平を受け入れさせていたら自分を救ってくれたに違いない恥ずべき平和よりも、彼が捕虜となったカルタゴ人たちのもとで死ぬほうを選んだ。

サン・ラザール通り (rue Saint-Lazare) はソロン通り (rue de Solon) に。

この有名なギリシア人は……王たちの敵であり……王になることを拒否し……アテネに非常に賢明な法律を与えた。パリの通りの一つに記名されるべきである。市民一人ひとりが、目を上げ、その名を見て歩む方向を定めるとき、この名をもった人物の信条が自分の行動をも律するべきであることを思い出すであろう。

ヌーヴ・サント・クロワ通り (rue Neuve-Sainte-Croix) と
ティルー通り (rue Thiroux) はコーマルタン通り (rue
Caumartin) の延長でしかないので、これら三つの通りはプ
ブル・スヴラン⁴通り (rue Peuple souverain) の名で示すこ
とにした。

人民に自らの諸権利を思い出させるあらゆるものを、人民
の目に触れさせるべく増やさねばならない。そうすることによ
って、諸権利が人民の魂を高揚させるときのエネルギーが、
それら諸権利を人民から奪おうとする者と、死をかけてまで
人民を戦わせしめるためである。

ボードロー通り (rue Baudreau) とトリュドン通り (rue
Trudon) もまた、互いに延長線上にあるので、これら二つの
通りにキケロ通り (rue de Cicéron) の名を与えた。

この有名な雄弁家は、雄弁が市民の持つ才能の一つとなる
自由な人民のもとで敬われねばならない。カティリナ⁵の化け
の皮をはがした彼を常に我々の視野のもとに置こう。そして、
もし我々のうちの誰かがカティリナのように見えたならば、
我々はキケロを思いだして奮い立ち、彼がしたように陰謀家
たちに立ち向かえるようにしよう。

[サドの注：コミューンは、キケロの名のかわりにソクラ
テスの名を用いることを望み、総会はこの変更を採用した。]

フェルム・デ・マテュラン通り（rue de la Ferme-des-Mathurins）はシャン・ド・ラ・グロワール⁶通り（rue des Champs-de-la-Gloire）に。

この通りは、田園に通じているが、パリを取り巻いている田園地帯はすべて同じ名前をもつ価値があろう。万一敵がその田野に近づこうものなら、その敵が現れるや我々が圧勝するであろう田野を我々はすでに勝利ヶ原と呼んでいることを敵は知るがよい。

ラルカード通り（rue de l'Alcade）はスパルタクス通り（rue de Spartacus）に。

ローマ人達は偉大ではあったが、自分たちの見せ物で人間を犠牲にするほど残忍でもあった。奴隷スパルタクスは、この不名誉を強いられた。彼は、人間である以上その不名誉を免れてしかるべきであると思い、彼の死を笑いものにしたいと思っていた残酷な人々に対して反乱を起こした。徒党を組み、自由と人間の平等を主張した。そして、後世の人々は彼を、人間の諸権利の最も熱心な擁護者の一人であるといつまでもみなし続けるであろう。彼の名は我々の通りの一つを区別するものであらねばならない。その名が、その名を読む者に、万一フランスで暴君たちが頭をもたげたなら、彼らはたくさんスパルタクスを見いだすことになるということを、思い出させねばならない。

マドレーヌ通り (rue de la Madeleine) はコルネリア通り (rue de Cornélie) に。

グラックス兄弟⁷のこの有名な母は、ガリラヤの娼婦⁸に匹敵する。ある日、一人の女性にあなたの富はどこにありますかときかれて、彼女は自分の子供たちを示しながら「ほら、ここにいます」と言った。そして二人の子供はともに、疑いなく、母親の富となるべき者であった。彼らは常に人民の側にあつて、平等な制度を主張することによって有名になった。彼らは自らの熱意の犠牲となり、彼らが富ませたいと望んだローマ人民は、彼らの死後貧窮に陥った。

シュレーヌ通りはマドレーヌ通りに通じている。後者には母親の名を与えたので、前者には子供たちの名を与えた。すなわち、シュレーヌ通り (rue de Surène) はグラックス通りに (rue des Gracques) 。

アグソー市場 (march d'Aguesseau) にル・ペルティエの名を与えた。暴君の死に票を投じたがために自由の最初の殉教者となった者のほうが、同じ暴君たちに、自分は服従の範囲外のもの絶対に示してはならないし、示そうと思ってもないと言っていた者に勝る。

その近くに、アンリ四世小路 (cour d'Henri IV) と呼ばれる小路がある。ローマの国王たちを追い払ったユニウス・ブ

ルトゥスの名が、パリの国王たちを忘れさせてくれることを、我々は望んだ。

人民の行政官諸君、もし諸君が我々の仕事に賛成してくれるなら、それを急いで実行に移すことをどうか我々に許可していただきたい。人々を熱狂させるに違いないものを遅らせることは失うことにほかならない。そして我々は、諸君の間では決してそのようなことにはならないと確信している。愛国心の友は、常に、愛国心を祀る神殿に迎え入れられるであろう。

ピック地区総会は、この仕事の朗読をきいた後、全会一致でこれを採択し、地区の委員長、副委員長、およびこの計画書の作成者に、コミューン議会ならびに建設行政部門らにこれを提示する許可を与えるものである。

副委員長 サド

コミューン議会は、この仕事に賛成し、建設行政部門にその実施を付託する。

- 1 国民公会。
- 2 大カトー（前234-149）とその曾孫の小カトー（前95-46）の二人がいるが、ここでは後者。
- 3 「自由な人間」の意味。
- 4 「主権者たる人民」の意味。
- 5 前108-62。社会に不満を持つものを集めて陰謀をたくらんだ「カティリナ事件」の首謀者。キケロらの奮闘によって破れた。
- 6 「勝利ヶ原」の意味。
- 7 ローマの政治家、ティベリウス・セムプロニウス（前163-133）とガイウス・セムプロニウス（前154-121）の兄弟。
- 8 聖母マリアのこと。サドは『閨房哲学』（La Philosophie dans le boudoir）の中で、聖母を「ふしだらなマリア」と呼んでいる。「ナザレの凡庸なペテン師は、何らかの偉大な思想を諸君に生み出させるであろうか。彼の汚らしくぞっとする母親であるふしだらなマリアは、諸君に美徳を吹き込むであろうか。そして、彼の極楽浄土を一杯にしている聖人たちは、偉大さ、勇壮さ、あるいは美徳の手本となっているであろうか」（Sade, Œuvres, t.3, Bibliothèque de la Pléiade, 1998, p.114）